

【講演レポート】

## 「AIMS 適合性評価制度の概要」

ISMS-AC ISMS/AIMS/ITSMS/BCMS 認定主任審査員 郡司 哲也

### ISMS-AC の概要

一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター (ISMS-AC) は、マネジメントシステムの認証機関の認定と国際レベルの認定機関間の相互承認を主な事業として活動しています。

ISMS 適合性評価制度は一般財団法人日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC) が運用を開始し、2006 年からアジア太平洋認定協力機構 (APAC : Asia Pacific Accreditation Cooperation) に加盟、翌年、APAC の上位機関である国際認定フォーラム (IAF : International Accreditation Forum, Inc.) に加盟しました。

その後、2018 年に認定機関としての独立性・公平性をより確実にするため、一般社団法人として現在の ISMS-AC が設立され、同年に情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の認定に係る国際的な相互承認協定 (MRA : Mutual Recognition Arrangement) に署名しました。以降、ISMS、IT サービスマネジメントシステム (ITSMS)、事業継続マネジメントシステム (BCMS) と、2025 年 7 月から開始している今回のテーマである AI マネジメントシステム (AIMS) の認証を行う認証機関を認定する役割を担って活動しています。

### 適合性評価制度における認証の位置付け

「〇〇認証」という言い回しは良く使われていますが、適合性評価制度においては、認証は制度の一部となります。適合性評価とは、規格等で定められた要求事項が満たされていることを実証する行為を指し、ISMS 認証であれば、認証基準である ISO/IEC 27001 で定められている要求事項への適合性を認証機関が審査し、適合の証として認証登録証を発行します。

なお、適合性評価 (要求事項に適合していることの実証) には、三通りの方法があります。

- 第一者：自社による自己宣言
- 第二者：取引先の発注者等による監査の受審
- 第三者：第三者の独立した適合性評価機関による監査の受審

この第三者による監査 (審査) のことを「認証」と呼びます。したがって、第三者認証という言い方をされる場合がありますが、そもそも第三者による審査=認証であることをご理解ください。(図 1)

適合性評価制度においては、「認定」という言葉も登場します。認証を行う立場の認証機関が規格に基づき適切に認証活動を行っているかについて、さらに第三者である認定機関が審査をする行為が「認定」です。

適合性評価制度とは、以上の「認証」と「認定」を含む制度全体を指します。

## 適合性評価制度における認証の位置づけ



規格等で定められた**要求事項が満たされていることを実証する「適合性評価」**に係る活動(試験、認証等)は、その主体により以下の通り分類される

- ✓ 第一者(自社)による自己宣言
- ✓ 第二者(取引等の発注者)による監査
- ✓ 第三者(**独立した適合性評価機関**)による審査

適合性評価制度の主役である  
**認証機関の信頼性の担保**  
が重要  
||  
認定(Accreditation)



©2026 ISMS Accreditation Center

6

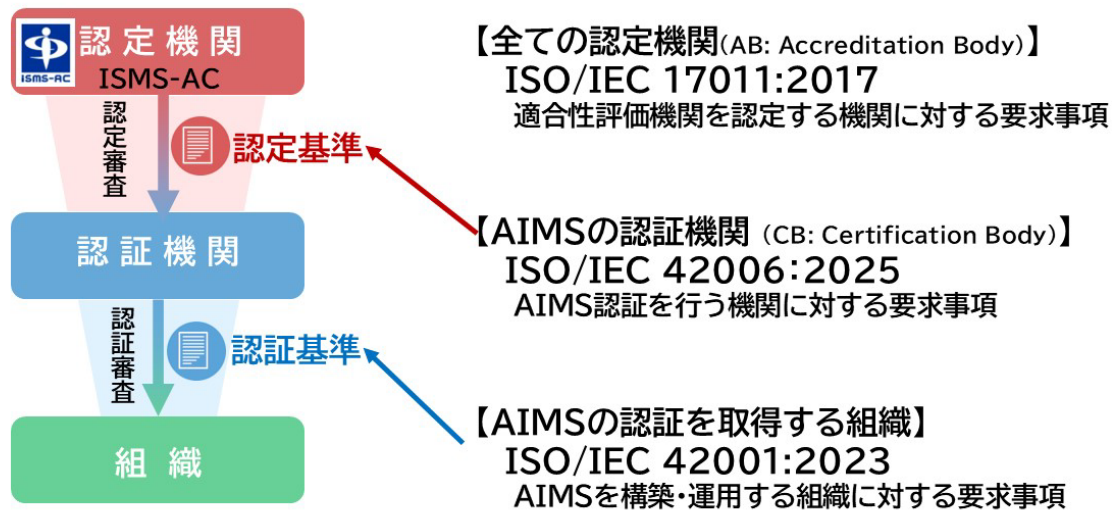
図 1. 適合性評価制度における認証の位置づけ

### AIMS 適合性評価制度における認定と認証

AIMS 認証は、認証を取得したい企業が認証機関に審査を依頼し、認証基準である ISO/IEC 42001「AI マネジメントシステムのための要求事項」の要求事項に適合していれば、認証登録証が発行される仕組みとなっています。

AIMS 認証を提供する認証機関に対し、ISMS-AC は、認定基準である ISO/IEC 42006「AIMS 認証を行う機関に対する要求事項」に基づき適切な認証サービスが行われているかを審査し、適合と判断された認証機関を認定する仕組みとなっています。(図 2)

# AIMS適合性評価制度における認定と認証



©2026 ISMS Accreditation Center

7

図2. AIMS 適合性評価制度における認定と認証

ISMS-AC は ISMS の認証機関を 27 機関認定し、2026 年 3 月時点で、これらの認証機関による ISMS 認証は、8,435 組織を数えます。一方、AIMS 認証については、今年 1 月に国内初の AIMS 認証機関として、SGS ジャパン株式会社、テュフ ラインランド ジャパン株式会社の 2 機関を認定しました<sup>1</sup>。

## 国際相互承認協定の意義・役割

冒頭で説明したように、国際的にも有効な認証であることを担保するために、JIPDEC 時代の 2006 年に APAC に、翌年の 2007 年に IAF (現 Global Accreditation Cooperation Incorporated<sup>2</sup>) に加盟しました。

認証を受けた組織は、ステークホルダーである取引先や顧客に対し、認証を取得した旨を示すことができます。また、認証機関は認定機関から認定を受け、認証活動を行っていることを示すことができます。

一方、認定機関が適切に審査しているかを担保するためには、IAF に加盟している各国の認定機関同士が定期的に相互評価を行う仕組みがあり、これにより国際的な相互承認協定 (MRA) が実現します。この仕組みにより、日本で認定を受けた認証機関による認証が国際的にも同等であることが担保できるのです。(図 3)

さらに、APAC では、新たに ISO/IEC 42001 に基づく AIMS 認証に関しても相互承認協定に取り組むことが決定しています。

<sup>1</sup> [AIMS 認証機関一覧](#)

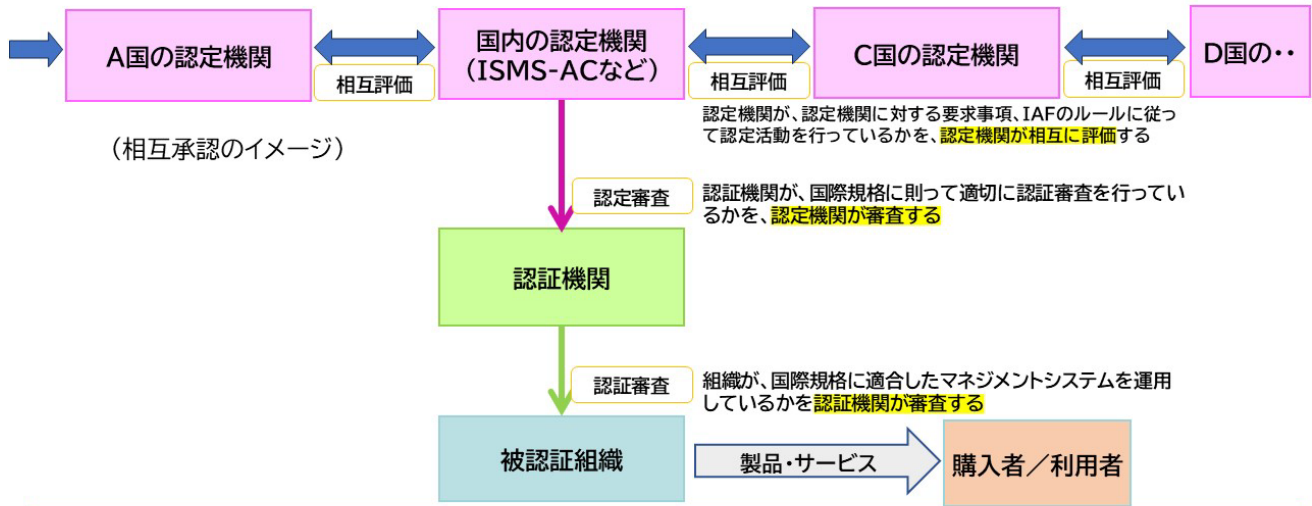
[AIMS 認証登録組織一覧](#)

<sup>2</sup> [IAF と ILAC の統合について](#)

## 国際相互承認協定(MRA)の意義・役割



### ■ 認定機関の間の相互評価を通じて、国際的な認証の同等性を担保



©2026 ISMS Accreditation Center

11

図3. 国際相互承認協定 (MRA) の意義・役割

## AIMS 適合性評価制度への期待

### AI ガバナンスに係る国内外の動向

2023年5月のG7-広島サミットでの「広島AIプロセス」の創設により、国際的にもAIの適切な取り扱いに関する議論が開始され、国内では「AI事業者ガイドライン」も発行されましたが、AIMS適合性評価制度にとっては「ISO/IEC 42001」(2023年12月)と「ISO/IEC 42006」(2025年7月)の発行が大きなトピックとなります。両規格の発行を受けて、ISMS-ACは2025年7月に認定を開始し、2026年1月に二つの認定機関を認定しました。

政府機関の動向としては、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)内にAIセーフティ・インスティテュート(AISI)が発足し、AIセーフティ評価に関するWG内に設置された適合性評価サブWGには、ISMS-ACから山内徹代表理事他が参加しています。

ISMS-ACはAIMSに関する規格や特徴などをWebサイト<sup>3</sup>等で紹介したり、経済産業省もISO/IEC 42001発行直後に「AIマネジメントシステムの国際規格が発行されました」<sup>4</sup>として解説をウェブサイトで紹介されています。(図4)

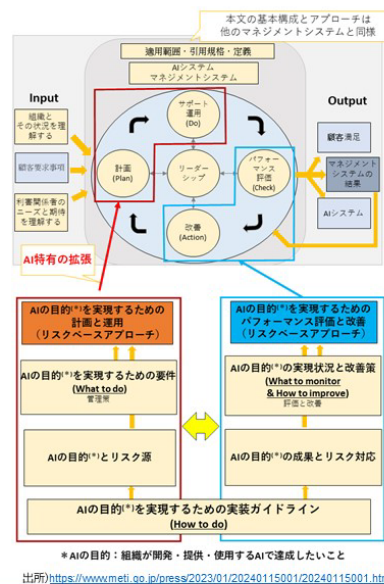
<sup>3</sup> [ISMS-AC「AIMS適合性評価制度」](#)

<sup>4</sup> 経済産業省 [「AIマネジメントシステムの国際規格が発行されました」](#) (2026年1月15日)

# ISO/IEC 42001 AIマネジメントシステムの概要



- 組織が構築するAIに係るマネジメントシステムの要求事項
  - PDCAサイクルに基づくマネジメントシステムの確立、実装、維持及び継続的な改善に関する要求事項を記載
- ISMS認証基準であるISO/IEC 27001をベースとした構成
  - AIシステムの利活用(開発、提供、利用)に関連するリスクを特定し、その評価・対策を行う(リスクマネジメント)のアプローチ
- 特定されたリスクに対処するための9つの目的と38の管理策
  - データガバナンス、ライフサイクル管理、AIシステムの検証及び妥当性確認など
- AIシステムに対する組織の役割
  - AI producer(AIプロデューサー)
    - AIシステムを使用する製品又はサービスを設計、開発、テスト及び展開する組織
  - AI provider(AI提供者)
    - AIシステムを使用する製品又はサービスを提供する組織
  - AI customer(AI顧客)
    - AI提供者が提供するAIの製品又はサービスを使用する組織
  - 上記の組み合わせ



©2026 ISMS Accreditation Center

18

図 4. ISO/IEC 42001 AI マネジメントシステムの概要

## AIMS 認証を取得するには

国内でもいくつかの組織がすでに AIMS 認証を取得していますが、日本国内では SGS ジャパン株式会社、テュフ ラインランド ジャパン株式会社が AIMS 認証機関として認定されています。認証取得をお考えの方は、ISMS-AC による認定を受けた AIMS 認証機関にお問い合わせください。(図 5)

## 各国の認定機関によるAIMS認定



国名	認定機関名称	認定開始状況
日本	ISMS-AC	2認定機関を認定
米国	UAF	3認定機関を認定
米国	IAS	9認定機関を認定
米国	ANAB	11認定機関を認定
韓国	KAB	6認定機関を認定
オランダ	RvA	3認定機関を認定
インド	NABCB	2認定機関を認定
シンガポール	SAC	2認定機関を認定
オーストラリア・ニュージーランド	JASANZ	2認定機関を認定
英国	UKAS	2024年9月からパイロットを開始
トルコ	TURKAK	7認定機関を認定

©2026 ISMS Accreditation Center

19

図 5. 各国の認定機関による AIMS 認定



郡司 哲也

ISMS-AC ISMS/AIMS/ITSMS/BCMS 認定主任審査員

2020年4月より、JIPDEC セキュリティマネジメント推進室に所属し、一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター (ISMS-AC) 出向。

JIPDEC セキュリティマネジメント推進室では、情報マネジメントシステムの適合性評価制度の普及・推進と、制度が参照する国際標準化活動にも参画しつつ、ISMS-AC の認定審査員として、ISMS/AIMS/ITSMS/BCMS 認証機関の認定審査も実施。

本内容は、2026年3月30日から4月20日にかけてオンデマンド配信された JIPDEC セミナー「AI のリスクマネジメントと AI マネジメントシステム (AIMS) 認証の最新動向」での講演内容を取りまとめたものです。